

# 障害学生へのインタビュー調査

## 目的

大学入試における特別措置申請の経緯およびその準備の現状について個別の事例を収集することを目的として、障害のある高校生本人や保護者、また彼らが在籍する（していた）高等学校の教員にインタビューを行った。得られた結果から、障害のある高校生の、大学入試における特別支援措置の実際については、これまでこれらの事例から、現状の特別措置の不足点と、望ましい特別措置申請の形を検討した。

## 方法

### 協力者

19名（男性10名、女性9名）の17～22歳（平均年齢18.7歳）の障害学生で、受験を準備している者（高校在学中およびすでに卒業した者を含む）および受験経験者（大学進学済みおよび翌年以降の受験準備中）のインタビューを行った。また、本人以外にもインタビューができた事例に関しては、保護者15件、在籍する高等学校教員15件であった。20件の障害のある高校生の事例のうち、大学入試における特別措置申請を、平成20年度入試またはそれ以前に経験していた者の人数は14名であり、他の6名は未経験で翌年以降に向けて準備中の者であった。障害のある高校生20名のうち13名は一般校、4名は特別支援学校、2名は通信制高校、1名は非認可校に通学していた。インタビューへの協力が得られた高校生の障害種別を表1に示した。重複障害のある高校生も含まれているため、人数は延べ人数とした。

### 実施場所・日時

インタビューの実施場所は、対象の障害学生が通っている学校または自宅へインタビューが訪問する形や、東京大学先端科学技術研究センター内の会議室へ対象者に来所してもらう形で行った。保護者または高等学校の担当教員がインタビュー時に対象の高校生に同席するか否かについては各家庭の状況や希望に合わせて、統制しなかった。またインタビュー日時は、2009年1月～3月の期間に実施した。

### 手続き

インタビューの内容については、以下に挙げた項目を聞き取りのポイントとした。特別措置申請の経験のある高校生に対しては、申請の経験について、時系列を追いながら具体的に申請の関連作業として行動した内容および、その際に感じた主観的な考えを聞き取った。インタビューは、障害学生への高等教育支援について実践的な経験を持つ2名のインタビュー어가、すべての対象者の聞き取りを実施した。

- 具体的な希望措置内容
- 高校での指導体制・支援内容
- 家族の協力体制・支援内容
- 主治医との協力体制
- 大学入試センター試験への特別措置申請内容
- 志望大学（二次試験実施時）への特別措置申請内容
- 特別措置申請時の担当者との打ち合わせ内容
- 特別措置申請関連の情報をどこから得たか

表1. インタビューへの協力が得られた障害学生の障害内容と受験，特別措置申請の経験

事例		受験経験	特別措置申請
1	体幹機能障害（筋ジストロフィ）	有	申請
2	体幹機能障害（筋ジストロフィ）	---	事前打診中
3	体幹機能障害（筋ジストロフィ）	---	---
4	体幹機能障害（筋ジストロフィ）	---	---
5	体幹機能障害（脳性麻痺）	有	申請
6	体幹機能障害（脳性麻痺）	有	申請
7	四肢体幹機能障害（脳性麻痺）	---	---
8	四肢体幹機能障害（疾病）	有	申請
9	四肢体幹機能障害（頸椎損傷）	有	申請
10	両上下肢機能障害（骨形成不全）	有	申請
11	下肢機能障害（脊椎損傷）	有	申請
12	先天性四肢機能障害	有	申請せず
13	聴覚障害（感音難聴）	有	申請
14	聴覚障害（伝音難聴）	有	申請
15	発達障害（アスペルガー症候群）	有	申請
16	発達障害（アスペルガー症候群）	有	申請せず
17	高次脳機能障害（視覚障害，視覚失認，軽度左半身麻痺）	有	申請
18	高次脳機能障害（多発性硬化症）	有	申請
19	視覚障害（網膜色素変性症）	有	申請